

平成 26 年 10 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 26 年度第 8 回

日本人の魂 — 足るを知る心 —

先程、皆様に論語の素読をして戴きました。何度も何度も読み直して、すらすらと読めるとよろしいですね。ちょうど今日の論語解説の中に「詩三百を誦するも」とあります。この時代の教養人は詩経三百をすらすらと暗誦していて、ごく当たり前に詩の中のやり取りで会話ができました。太田道灌の山吹の里伝説は皆さんもご存知でしょう。狩りの最中に雨に降られ、一軒のあばら家に立ち寄って蓑を貸してくれるように言ったところ、少女が盆に山吹の枝を乗せて差し出したという話です。少女が「実の（蓑）ひとつだに なきぞ 悲しき」という古歌で対応したということは、その家庭の教養の程度が見えます。中斎塾フォーラムでは「足るを知る」をベースにしていますから、我々も会話の中で「足るを知る」という話がすらすらと出れば、レベルが高いということになります。

先程の代表幹事の挨拶では、小淵優子さんと松島みどりさんの女性大臣の辞任を取り上げていました。追及に対して和歌か何かを用いて格式高くさらっとかわせば、国民も勿体ないと感じるでしょうに、「調査します」では話になりませんね。小淵さんは周りの人たちが上手に育てて女性初の総理大臣にしたいと思っているのだから、叩かれた時にもそれなりの返答が出来るよう危機管理を徹底すべきです。将来があるのだから、ごめんなさいと言ってすっと辞めるか、品の良い日本人の魂がこもっている歌でもひいて、上手くかわしていければよかったのになあと思います。

先日、櫻井よし子さんの書かれた文章（転載）を読みました。櫻井よし子さんは様々なところでご自分の主義主張を発信しています。本人は苦学して身を張って生きてこられたから、それがそのまま強烈な主張に表れていると感じますが、この文章は「嘘をつかない」とか「足るを知る心」に触れて日本人の素晴らしさを書いておられ、非常に共感致しましたので抜粋してご紹介します。

武士道というものは、武士のものであり、庶民とは関係なかったかと言いますとそんなことはありません。それを教えてくれるのは、江戸の終わりから明治にかけて日

本を訪れた外国の人々です。彼らは驚嘆しました。日本人の礼儀正しさ、誠実さ、何があっても盗まずに、本当に他人に対して優しい心遣いを見せることに驚いた。また、清潔だったことも彼らの驚きの対象でした。自分の身体も家も道も清潔にして、他人の物は何も盗まない。嘘はつかない。そして自分が今持っているものに満足して、幸せそうな笑顔を浮かべて生きている。この微笑みを浮かべた表情というものは、男も女も、老いも若きも、豊かな人も貧乏な人も皆同じだったと書いています。

自分の境遇を真正面から前向きに受け止めて、その中で力を尽くして生きることを是とする。この足るを知る心という武士の極めて潔い生き方が庶民にまで行き渡っていたのであろうと思います。こうした武士道の価値観が日本の日本たる所以であり、日本人の日本人たる所以だろうと思います。日本は、この日本人としての立派さを取り戻すことによってのみ、本当の意味で再生できると考えています。

我々が「足るを知る」という考え方を持つことはとても良いことです。中村天風先生の本を読むと、「足るを知る」という域まで達した人は良い表情が出ると書いてあります。例えば給料を貰って、これでは足りないと不満に思った時は、眉間に皺が寄って良い面相にはなりません。これで家族が食べられて有難いと思えば、すごく良い表情になります。それが足るを知るという考え方だと言っておられます。それが日本の国のおそらく根幹にあるのだと思います。良い笑顔、良い表情、足るを知る、これは皆つながっています。皆さんも時々鏡を見て、もし眉間に皺が寄っていたり目つきが悪いと思ったら、もう一度自分の心の中を見直して磨き直しをしましょう。

忙中有閑

本日ご紹介する本は、渡邊五郎三郎先生の書かれた『佐藤一斎 一日一言 「言志四録」を読む』です。本日のテーマは「忙」ですが、本の中にこう書かれていますのでご紹介します。

こんじんおおむ
今人 率 ね口に多忙を説く。其の為す所を視るに、じつじ 実事を整頓するもの十に一、二、
かんじ 閑時を料理するもの十に八、九、又閑時を認めて以て実事と為す。宜なり其の多忙な
るや。志有る者誤りて此のか窠を踏むこと勿れ。なか（言 31）

（訳）今の人は口を開けば忙しいという。しかし、その行動を見ていると、実際に大事な仕事をきちんと処理しているのは十のうちの一つか二つだけで、十のうちの一つか九つはどうでもいいことをやっている。このどうでもいいことを大切な仕事であると思っているのである。これでは忙しいのも無理はない。志を持つ者は、こんな間違

いにはまり込んではいけない。

これは「六中観」が頭の中にあって取り上げました。皆さんは今、忙しくて大変ですか？それとも比較的閑があるなと感じますか？・・・閑があるという方はとても良い心根です。「忙中閑有り」で、べらぼうに忙しい時にも意識して本物の閑を作り出すと、良い表情になります。どうしても大事な仕事というのはそうそうあるものではないから、他の人に任せられるものはやって貰えばよいのです。自分が本当に忙しいのかよく考えて、忙しい時こそ自分自身を考える時間を意識して作るようにしなさい、ということが「六中観」に書かれています。

今の政治家は「忙しい」というのが固定観念みたいですから、「忙中有閑」を実践できれば、辞任したお二人のように「調査しています」などと答弁しないで済むでしょうし、後のことを考えずに団扇を配ったりはしないでしょ。

恒例の質問

- 昨日一日、嘘をつかなかった方
- 昨日一日、良い日だったなという方
- 昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方

ここまで皆さん手が挙がって、非常によろしいですね。「有難う」と言われると、「有難う」と言った時よりはるかに自分の心が穏やかになります。手を挙げなかった方は、意識してアンテナを張り、「有難う」と言われたら見過ごさないようにしてください。

- 昨日から今日にかけて、健康法を実践された方

私は夜寝る時に、アキレス腱を伸ばす運動をしています。お医者さんからアキレス腱が固くなっていると言われ、教えて戴きました。手を挙げなかった方は、寝る時に布団の上で腹式呼吸法をすればよいのです。息を長く吐いて、ゆっくりゆっくり吸う。それを何度か行えば立派な健康法です。

- 昨夜寝る時、明日を過去形でイメージ出来た方

明日のことを過去形でイメージする。明日はワクワクするような楽しいことが待っていると思うとイメージし易いと思います。ポールマイヤーやカーネギーの唱えた成功の法則と同じで、これが出来ればお金が寄ってきてくれます。

時事評論 一領土回復のうごき一

オバマ大統領が国連総会の演説で「人類が直面している脅威」として、エボラ出血熱・

イスラム国・ロシアと発言しました。これに対してプーチン大統領が不快感を表したという報道がありました。

中でも私が特に氣になっているのはイスラム国です。奴隷制の復活を宣言しましたが、これは完全なる逆行です。タリバンはマララさんを完全に殺すつもりで撃ったのです。しかし命を取り留めてノーベル賞まで受賞したのですから、再びマララさんの命を狙うでしょう。イスラム国は、異教徒は捕まえて奴隷にするとか女性に教育をしてはいけない等と、欧米の人たちの神経を逆なでするようなことをどんどんやっています。根っこにあるのは領土の回復です。最近の領土紛争は皆、領土の回復が目的です。かつてオスマントルコ帝国が世界征服をした。今のイスラム国はそこまで領土を回復したいというのが念願で、奴隷制の復活であるとか、女性に教育をしないと、過激なテロに走っているわけです。

ロシアが色々な国で領土紛争を起こしていますが、これも領土拡大ではなく、ロシアがかつて持っていた領土の回復です。中国も同じです。今月末に中斎塾フォーラムのメンバー6名でモンゴルを訪問しますが、モンゴルもかつてはチンギスハンが創りあげた大帝国があるわけですから、そこまで領土を回復したいという願いは根っこにあるのではないかと思います。日本で言えば沖縄は琉球王国でしたから、領土を回復したい・独立したいという思いがあっても不思議ではないと思います。

最近の世界を見ると、領土回復というキーワードで世界中がうごめいています。それを視点にしてテレビを見たり、新聞を読んだりすると分かりやすいでしょう。キーワードは領土回復です。足るを知る心とは相反する動きに、どんどん進んでいます。同じ国土を色々な国が何度も何度も征服していれば、有限の土地・有限の国家に対して、くもとは自分たちの土地だ！>などという理屈は通りません。この、すごく分かり易い理屈が分からないで世の中は進んでいる。今、世界はおかしな動きになっていると感じています。

其の身 正しければ、令せずとも行わる

では論語の解説に参ります。本日の論語は子路篇四～七です。

【四】樊遲 稼を学ばんことを請う。子曰く、吾 老農に如かずと。圃を為ることを学ばんと請う。曰く、吾 老圃に如かずと。樊遲 出づ。子曰く、小人なるかな樊須や。上礼を好めば、則ち民 敢て敬せざる事莫く、上 義を好めば、則ち民 敢て服せざる事莫く、上 信を好めば、則ち民 敢て情を用いざる事莫し。夫れ是の如くならば、則ち四方の民、其の子を襁負して至らん。焉んぞ稼を用いんと。

樊遲は孔子より 36 歳若いお弟子さんです。孔子はこの頃 60 歳くらいですから、孔子か

らみるとかなり年下で、尚且つ理解力が足りない樊遲に分かるように教えなければいけないと思っています。雍也篇では、樊遲が知とは如何なるものか尋ねると、孔子は「お前がしかるべきポストに就いた時には、神に対しては敬い、国民には国家に対して義務を果たすことを教えてあげなさい」と具体的に教えています。また、仁について尋ねた時には、「仁を実践する人間は、先ずきちんとした仕事をした後で、給料を欲しいと言いなさい」と分かりやすく諭しています。孔子は弟子の理解力に応じて返答をしていることを頭に入れておいてください。では解説します。

樊遲が孔子に、穀物の栽培方法を教えて下さいと頼みました。

孔子が「私は、経験を積んだ年寄のお百姓には及ばない」と答えました。

樊遲は次に、野菜の作り方を教えて下さいと頼みました。

孔子が「農家のお年寄に聞けばよい」と答えました。

この時代は分業で、穀物を作る農家と野菜を作る農家は別でした。樊遲は自分がしかるべきポストに就いたら、農家をきちんと指導する必要があると考えて、孔子に教えを請うたわけです。それに対して孔子は、リーダーは農家が立ちゆくように考え実行するべきで、具体的に農作物の育て方を覚える必要はないのだよ、と遠まわしに答えています。

しかし樊遲が孔子の言った意味を理解できずに出て行ったので、孔子が樊遲に伝わるように周りのお弟子さん達に言いました。

「樊遲よ、横道に逸れるでない。上に立つ者が礼儀を大切にすれば、国民は自然と尊敬するものだ。上の者が正義を重んじれば、国民は自然と言う事をきくものだ。上の者が信頼を好めば、国民は自然と誠実になるものだ。これらを尽くして政をすれば、四方の国民が子供をおんぶしてでも集まって来て、国のために一所懸命耕作するだろう。どうして自ら耕作する必要があるのか。」

やるべきこと、覚えることは他にある。上に立つ人間としての心構えを覚えなさい、と間接的に樊遲に伝わるように言っています。

「上 礼を好めば・・・」の部分で考えてみましょう。上の人たちが礼という道徳を好み自ら実践してゆけば、国民はみな尊敬する。今の大臣クラスの政治家、或いは高級官僚はどうでしょうか。国民は小渕優子さんを「上」と思って尊敬しているのでしょうか。なかなかそういう人物はいませんね。ただ、天皇陛下・皇后陛下の振舞いを拝見すると、自然と尊敬の念が出ます。ですからこの辺りは「上」を天皇陛下や皇后陛下と考えればよいのではないかという気が致します。

木内信胤先生は宮沢喜一さんを評して、「あの子は通訳をやっていたらよかった。総理大

臣などやるものではなかったね」と言われたことがあります。皆、覚えるべきものを少し間違えて身に付けているのではないかという気がします。

この部分は、六の「其の身 正しければ、令せずとも行わる。其の身 正しからざれば、令すと雖も従わず」とぴったり一致していますので先に解説致します。

【六】 しいわく、そ其の身 ただ 正しければ、れい令せずとも おこな行わる。其の身 ただ 正しからざれば、れい令すと いえど雖も したが従わず。

孔子が言うには、上に立つ者が正しことをしていれば、はっきりとした命令を下さなくても国民は自然と従って、正しい政治が行なわれる。もし上に立つ者が正しいことをしていなければ、いくら命令を出しても国民は従わないものだ。

政治家や高級官僚が誠実にやるべきことをきちんと率先してやっていけば、いちいち命令しなくても自然とそういう方向に国は動いてゆくものだ。口先だけで行いが伴っていなければ国民は従うわけがない、とこの部分を読みました。

今の世の中で考えましょう。「其の身 正しければ」で見た時に、アメリカは正しいのだろうか？ オバマ大統領は？ 安倍首相は？ 日本の国は？ 韓国、ロシア、中国は？ と当てはめて考えると、どうしても不思議なのは、国のレベルでは嘘をついてもよい、政治家は嘘をついてもよい、総理大臣は解散について嘘をついてもよい・・・そんな馬鹿な話があるかと思えます。自分達だけ例外を持って嘘をついてもよいという理屈は、その国が滅びていくことだと思っています。

新聞を見ていて不思議に思うのは、読んでいて訳の分からないことばかり書いてあります。地方創生に関して、安倍首相は地方振興の目玉にしようと石破さんを担当大臣に充てました。長期ビジョンとして良い事をずらずらと挙げていますが、前提条件が人口1億人とあります。なぜ新聞は無理だと書かないのでしょうか。長期ビジョン1億人など出来るわけがない部分を、二枚舌・三枚舌を使って、出来るかのように国民に錯覚させています。自分の政権延命でやっているだけとしか見えてきません。

我々が新聞を読む時には、前提条件があるのではないか、或いは書き方が違うのではないか、という目で見ていくと必ず何かポンと浮かんできます。

高額所得者に対して保険料9万7千円を11万2千円にアップ、約30万人が対象という記事があります。これは月収121万円以上の人を高所得者として認めているという書き方です。こんなおかしな話があるかと思いながら読みました。75歳以上の後期高齢者も保険

料アップで、170 万人が対象と書いてあります。他にも外形標準課税の強化を考えているという記事があります。赤字企業であっても一定の資本金や従業員数を満たせば税金を取るということです。

こういった記事は何のことはない、国はお金が回らないからどんどん税金を巻き上げるということです。取れる所からはどんどん取って、出さない方針なのです。新聞は大きく見出しだけは作っても、なぜそこら辺をもっときちんと解説しないのでしょうか。全く不思議です。

以前、渡部昇一さんが書かれた本をご紹介します。税金が 3 割を超すと、その国は滅びる。イギリスの社会学者パーキンソンも、36%が分岐点であると言っています。日本ははるかにそれを超えていますから、真逆さまに落ちてゆく状況です。そういうことを政治家は知らないわけがありません。

**【五】^{しいわ}子曰く、^{しさんびやく}詩三百を^{しょう}誦するも、^{これ}之に^{さず}授くるに^{まつりごと}政を^{もつ}以てして^{たつ}達せず、^{しほう}四方に^{つかい}使して
^{せんたい}専対すること^{あた}能わずんば、^{おほ}多しと^{いんど}雖も亦^{また}奚^{なに}を^{もつ}以て^な為さん。**

孔子が言うには、いくら詩経の 300 篇を暗唱していても、政道を教えてもきちんと執り行うことが出来ない、四方の諸侯へ行ってきちんと談判できないというのは、何の役にも立たないではないか。

その当時の知識人・教養のある人間は、詩経 300 篇を暗記していました。我々が論語を読んで良いなと思って暗記をしても、それを活用できなければ何の役にも立ちません。論語を学んで、是非ご自分の仕事や日常生活に役立たせて下さい。

時事評論 2 ー日本が世界を救うー

10 月 6 日付の新聞に春日大社の式年造替の記事がありました。昨年、出雲大社と伊勢神宮は式年遷宮がありました。春日大社は 20 年に一度、造替といって、神様に仮の社へ移って戴いている間に社殿を修復するのだそうです。このように遷宮と造替で日本の神社はずっと継承されているのだと感じました。そういうことをしている国だから、千年続く企業が世界でも飛びぬけて多いというのも頷けます。

日本は春夏秋冬、四季の移ろいがあります。四季のある国土は宗教心を育みます。冬の間は枯れている木が春になると生まれ変わったように芽吹いて、緑が生い茂り花が咲く。

そこには神様の存在を身近に感じることが出来、八百万の神が生まれます。灼熱の砂漠の中では、どうしても一神教になっていくと思います。一神教の中で生き抜いてくる、苛烈な生存条件の中で生きている人達と、ある程度ゆったり生きてゆける環境下で暮らしている人達では、人間としての考え方・宗教心がまるで違います。日本という国は本当に良い国だなと思います。

文化・文明の観点からみても、日本がおそらく世界最古の文化・文明を持つ国だということが、これから10年20年の間で世界の常識になって来るだろうと思っています。日本の縄文時代は1万3千年～1万6千年前です。ここ20年くらいの考古学の進歩によって、縄文時代の状況がもう少しリアルに解明されてきました。具体的なものは、漆の使い方です。縄文人の住居は竪穴式住居ですが、その柱の7、8割は漆の木が使われていました。更に縄文人は漆の実や若芽を食用にしていました。それだけ漆が身近にありましたから、漆工芸・漆文化が進んでいたということが分かって来ました。

そうすると、漆の美術工芸は大陸から日本に来たという説が根底から崩れてきます。実はそれよりはるか昔に、日本には漆文化が栄えていた。日本の漆文化が朝鮮半島を通じて大陸に入り、そこで根付き、暫くして日本に返ってきたのではないかと考えられるわけです。中国は悠久四千年の歴史と言いますが、日本は1万3千年の歴史ですから桁が違いすぎます。日本は凄い文化・文明を有する国家だったのだと感じます。ただ縄文時代は血縁関係だけで集落が出来ていたもので、それを国家と言えるかどうかは議論の残るところですが、国家という概念・定義が変われば、世界最古の文化・文明国家と認められることになるわけで、今のところは「世界最古の文化を有する集落が日本に存在した」という言い方になります。

いずれにしても日本は1万3千年の歴史があり、世界最古の文化・文明があり、宗教心を育む風土がある。そう考えると、世界が生き延びるための智慧が日本から出てくるというのも不思議ではない気がしています。

新聞の見方

ミャンマーやバングラディッシュに対して、イスラム国が手を出し始めています。予想以上にイスラム国の動きは早いし、苛烈です。今朝の日経新聞には、「戦闘機3機をシリアから強奪し自分達の戦闘機として使い始めた」という記事がありました。よその国の武器を奪い、しかも使いこなすだけの能力があるということです。この間は、イスラムの戦闘員に志願しようとした日本の学生が逮捕されました。神田の古本屋に求人募集が出ていたということですが、いずれにしても戦地に行って人を殺してみたいという感覚で、世界各

国から戦闘員の応募がある。給料は現地の三倍支払っているという報道があります。尚且つ、武器を言い値で買い取っている。なぜそれほど潤沢な資金があるかという、油田の強奪や銀行強盗、そして同じイスラム圏の中で異教徒を誘拐して売っている誘拐産業です。

明らかに従来の世界の流れと変わってきたなと感じます。新聞はそういった小さい記事をポツンポツンと出すだけです。我々は気になる記事を丸で囲んでおいて1週間なり1ヶ月分をまとめて見直しすることをお勧めします。そうすると、どこかでハッと気が付か生まれます。

他に、エボラ出血熱に関する記事も気になります。10月7日の新聞では死者が3400人でした。その後の報道では4000人になって、最近の数字は4400人になりました。公には9000人の感染者で半数が死亡と発表されていますが、実態はその何倍か分かりません。怖いのは感染がどんどん拡大していることです。昔、ペストを黒死病と言いましたが、まさに現代の黒死病という感じがします。新型の鳥インフルエンザも同じような動き方になってくるでしょうから、よほど注意して生きていかないとはいけません。

以前、新聞を見る時の三つの注意点（国債・民主党・新型鳥インフルエンザ）を申しました。今、新聞を読む時に気をつけるのは、一つは自然災害です。自然災害とは大地震や大津波、伝染病等をひっくるめて自然が人間に与える脅威と捉えればよいでしょう。これは気をつけて見ていると沢山あります。

二つ目は、日本が自滅行為に陥る国債です。国債は今、不調の連続でおかしなことになっています。国債が破裂するのは時間の問題になって来ています。そうすると日本は、ハイパーインフレで一変にひっくり返ります。今、必死になって止めている状況です。

三つ目は、自民党です。野田税制調査会長が10%の消費税のアドバルーンをまた上げました。税金もどんどん巻き上げようとしています。

いずれにしても日本の国は今、真逆さまに落ちる方向に進んでいます。くれぐれも食糧を自給自足出来る様にして下さい。それが急務になってくると思っています。私は今年の正月に「日本が戦争に巻き込まれる確率が非常に高い」と申しました。ほんのちょっとしたことをきっかけに、残り二か月の間に起きる危険性は大きいです。もしこのまま年越しをしたなら、ちょっと間を置いて更に危険度がぐっと上がるとと思っています。